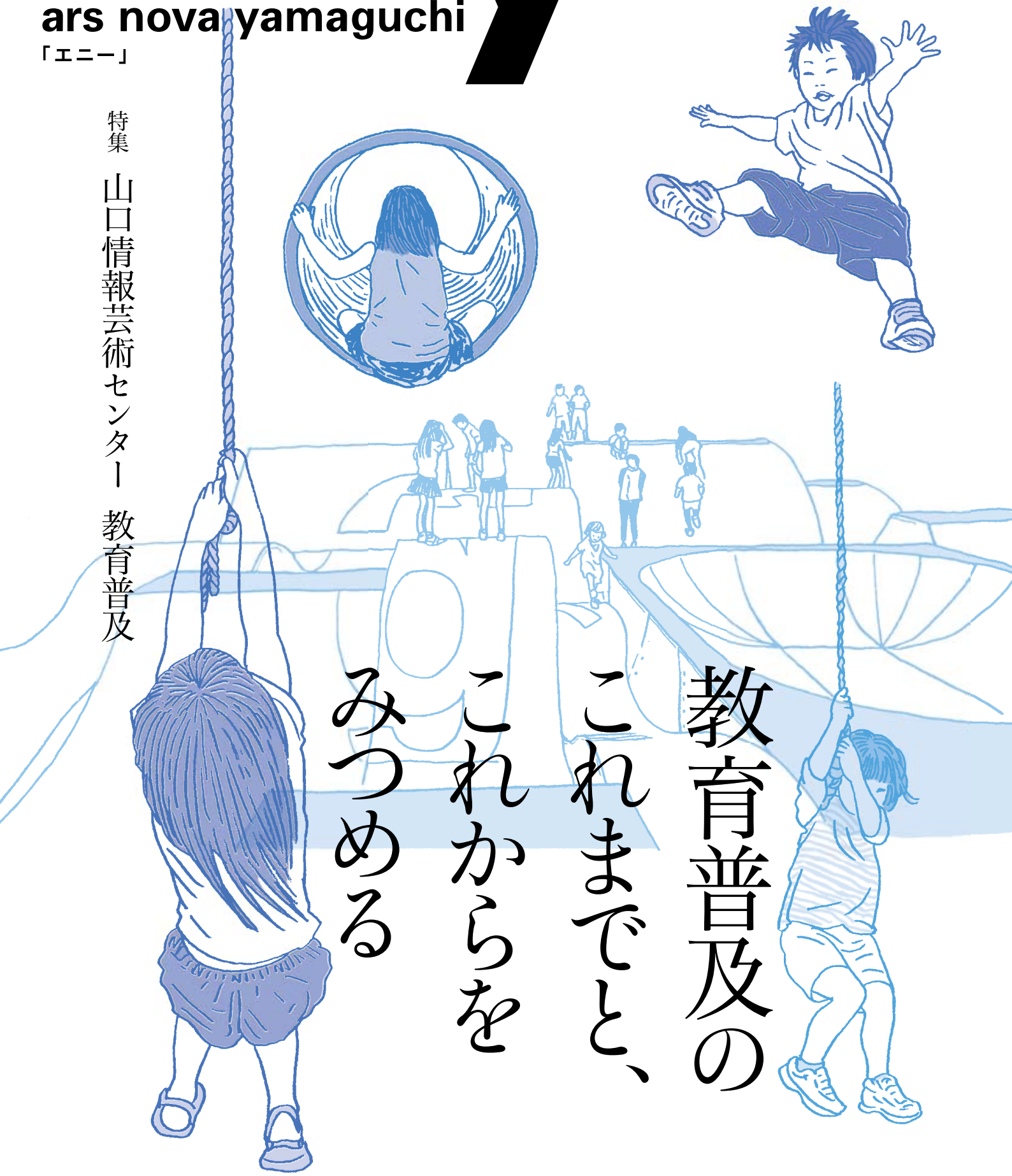
any

ars nova yamaguchi

「エニー」

winter 2013
Jan.—Mar.
83

特集 山口情報芸術センター 教育普及



教育普及の これまでと、これからを みつめる

any
ars nova yamaguchi

83
winter 2013
Jan.— Mar.

平成25年1月1日発行
発行:公益財団法人山口市文化振興財団

本誌記事の無断転載を固く禁じます。

C O N T E N T S

特集

03 教育普及のこれまでと、これからをみつめる
山口情報芸術センター　教育普及

ピックアップイベント

08 キーワードは音楽。

山口情報芸術センター
scopic measure #15
ライゾマティクス新作インスタレーション展
デザインとアートの横断から生まれる新たなフォーマット

YCAM InterLab＋安藤洋子　共同研究開発プロジェクト
「Reactor for Awareness in Motion」プレゼンテーション
メディア技術がダンス表現の新たな扉を開いていく

中原中也記念館
第10回常設テーマ展示「中也の“うた”」
中也の詩のなかにみる“うた”と“音楽”

山口市民会館
STARDUST REVUE LIVE TOUR「B.O.N.D.」
スターダスト・レビュー、1年半ぶりとなる山口公演

千住真理子＆長谷川陽子＆仲道郁代　女神たちの“愛のうた”
音楽の女神(ミューズ)たちによる夢の饗宴

12 any通信
◎アーティストボイス　武田高司（司会・役者）
◎お先に試写しました　「眠れぬ夜の仕事図鑑」
◎いらっしゃいませ　ベジタブル喫茶 ToyToy
◎GOOD GOODS　YCAM10周年オリジナルグッズ「ピンバッジ」
◎My Favorite　藤田雅子（山口市民会館 職員）

14 イベントカレンダー　1～3月
INFORMATION

any（エニー）とは、ラテン語の「新芸術（=ars nova）」と「山口（yamaguchi）」の頭文字を組み合わせた言葉です。

特集　山口情報芸術センター（YCAM）教育普及

教育普及のこれまでと、これからをみつめる

インタビュー　会田大也（山口情報芸術センター）＋前田淳子（山口県立美術館）

YCAMのプログラムの中でも大きな核をになう教育普及事業。
これまでにもさまざまなプログラムを独自に開発し展開してきました。
2012年夏、YCAMではその集大成ともいえる教育普及をテーマにした展覧会
「glitchGROUND（グリッチ・グラウンド）—メディアアートセンターから提案する、新しい学び場環境」を開催。
5～8月の3カ月の間に訪れた来場者は予想をはるかに超える人数でした。
YCAM教育普及活動の過去から未来までがすべて詰まったこの展覧会。
担当した教育普及チーフの会田大也さんはどう考え、何を思いながら企画したのか？
今回は山口県立美術館で同じく教育普及担当の前田淳子さんもお招きし、
YCAMとの違いや共通点などを伺いながら、教育普及のことを考えます。

「glitchGROUND」展の「コロガル公園」開催の様子

当初はなかった機能（ロープや床面の絵など）が徐々に追加されていく。

新しい遊び方、機能を考える「子どもあそびばミーティング」の様子

「子どもあそびばミーティング」の様子。YCAM InterLabと相談しながら子どもたちのアイディアが実現していく。

これまでやってきた考え方や今後YCAMがやっていきたいなと思う方向性を示した展覧会

会田大也　Aida Daiya

2012年夏、多くの方が来場された「glitch GROUND」展ですが、まずはどういった思いでこの展覧会を企画されたのでしょうか？

会田　YCAMの教育普及活動のコンセプトや考え方を知ってもらうことを一番の目的に、過去・現在・未来に対して、メディアアートセンターからのエデュケーションプログラムを提示しました。3つの柱でこれまでやってきた考え方や今後YCAMがやっていきたいなと思う方向性を示そうとした展覧会です。

1つ目は、「エデュケーションアーカイブス」というコーナーをホワイエに設置し、YCAMが今までに開発してきたオリジナルのワークショップについてその内容と、どんな考え方のもとでこれらの教育普及活動をやってきたのかを映像や文章で紹介しました。

2つ目に、2階のギャラリーコーナーで「コトバ身体インスタレーション」を展示しました。これは、参加者の動きをコンピュータに取り込み、その動きと言葉を自由に組み合わせることができる体験型の作品で、もともと振付家の山下残さんと一緒に開発したワークショップ企画でしたが、そこで使ったソフトを応用して展示作品に形を変えたものです。2012年夏には東京の八王子市夢美術館でも展示され、今後も様々な場所で展開されていく広がりのある現在進行形のプロジェクトとしてここでは紹介しました。

そして3つ目ですが、スタジオBで行った「コロガル公園」では、未来の学び場、もしくは遊び場を提案しました。将来、子どもたちが育っていく環境を考えたとき、メディア技術というのはもっと簡単なものになるだろうし、また日常的なものになっていくだろうから、手足を使った身体的な遊びとメディア技術を使った遊びは分け隔てなくどちらも同じ価値を持ち、同等のものになるだろうと想像しています。その考えのもと、「コロガル公園」では、部屋全体にネットワークや照明・音響などのシステムを整備し、そこに子どもたちが考える遊びのアイディアを追加していけるようにデザインしました。例えば「ロープをつけてほしい」「透明な床を出現させて」といった身体的な遊びのアイディアもOKだし、「ボタンを押したらすぐにライトの色を変えられるようにして」といった照明システムやネットワークを取り込んだアイディアも実現できるように環境を整えました。未来では、こんなふうに身体的な遊びとメディア技術を使った遊びが同列に存在する環境がある、ということを提案した“未来の公園のモデル”が「コロガル公園」なんです。

前田　「コロガル公園」はすごくお客さんが多かったですね。そんなに人が集まるって最初から予想していたんですか？

会田　ここまでは全く想像していませんでした。これまでのYCAMの展示(屋外はのぞく)の最大が1万人くらいだったので、同じくらいを見込んで来場者のけがなどのための保険をかけていましたが、見込の入場者数をはるかに上回ってしまって…。嬉しい悲鳴ですが。

自分たちで発想し改変していく遊び場

その魅力はどんなところにあったのでしょうか？

会田　一般的な公園にみられるような遊具があるわけではなく、ただ床があるだけなんだけど。でも、ただの水平な床ではなく、カーブしていたり急な坂になっていたり、トンネルになっていたりと複雑な形をしていました。そのアイディアのもとにあるのは美術家・荒川修作さんが設計した岐阜県養老にある庭園「養老天命反転地」や、フランスの建築家であり思想家クロード・パランが書いた『斜めにのびる建築』という本です。それら以外にも色々調べているときにおもしろいなと思ったのが、お年寄りがけがをする一番の原因は不安定な床で転ぶことだけど、そのリハビリにはあえて斜めの床を歩かせたり、不安定な床に立たせたりするというエピソードです。そうすることで総合的にふくらはぎやももの筋肉をバランスよく鍛えなおすことができる。不安定な場所にいるからこそかえって生きる力を強くしているということなんです。来場者は小さい子どもも多かったし、大人もその中に混じってたくさん遊んでくれていました。斜めの床を登ったり下ったり、ぐにゃぐにゃ曲がった床を走ったりすることで、言語じゃなく、感覚的な部分でわくわくすることができたんじゃないかなと思っています。

前田　（写真をみながら）本当だ。大人の人も楽しそうに遊んでいる！

会田　もう1つこの公園を考えるためにリサーチしたのが、50年ほど前にデンマークの造園家であるソーレンセン教授が提唱したプレーパークです。子どもたちは自分たちで改変していける場所を遊び場にするのが好きだという教授の研究結果のもとにできたプレーパークはいま世界中にあり、日本に最初にできたのは40年くらい前。子どもたちが自分たちの責任において遊具を自分たちで作って自分たちで遊ぶという公園なんですが、芝生も整備されていなくて泥もあって、あまり綺麗とは言えません。でも、ダムを造りたければ穴を掘って作っていいし、遊具が足りなければ自分たちで作ることができる。そのためにのこぎりやトンカチは無料で貸し出ししている。必ず1人か2人、遊び場のリーダー（プレーリーダー）がついていて、その人と一緒に遊び場を作っていきます。実際にそこを見学に行き話を聞かせてもらって、このプレーパークの考え方には可能性があるなと思ったんです。この考えを現代や未来に持ちこんだときどうなるのか？ おそらく任天堂DSのようなネットワーク系のゲームと連動したり、光そのものをコントロールできる環境があったり、サウンドシステムによる人工的な音が自然の風の音と一緒に混在するようになると思ったんです。それを先どりして実現してみたいというところからこの公園の形が出来上がったんです。

前田　これは常設してほしいという声があったんじゃないですか？

会田　ありましたね。終わるときに「もうなくなっちゃうの？」とか「延長できないの？」と言われたりしました。このパート2をやってくれという声もあったり…。

興味を持ってもらえるような窓口をたくさん作っていく

山口県立美術館でも様々な教育普及活動をされていますが、どんなところにポイントを置かれて企画されているのですか？

前田　美術館はまず「作品がある場所」という前提があるわけで、みなさんは作品を観に来られます。でもただ作品を観るだけではなく、そこにどんなおもしろいことが発見できるのか、その手助けになるような

前田淳子　Maeda Junko

観た！聴いた！みんなのレビュー

◎夢の中のような映画だった。年をとった姿に、その人の歩んできた姿が出るものだと思った。（60代女性　「映画『眠れ蜜』を観る」より）
◎「まさかあんなものが…」と思うものまで楽器になってすごかった。
　これから楽器になりそうなものがあったら探してみたい。（10代男性　「ワンダードラムパフォーマンス」より）
◎「今のあなたに何ができる？」という問いの、自分の年齢に近いシーンにドキッとした。（40代女性　ゴブ・スクワッド＆CAMPO「Before Your Very Eyes」より）

わかる！キーワード

【教育普及活動】　博物館や美術館等で、主に「展示」以外に行う講演会、作品鑑賞ツアー、ワークショップなどの教育的活動のことを指す。メディア技術を用いた新しい表現を創造・発信しているYCAMでは、鑑賞者がより有意義に作品に触れ、楽しんでいけるよう支援することを目的に様々なオリジナルプログラムを準備している。

YCAMオリジナル・ワークショップ

YCAMの代表的かつ人気のワークショップを5つご紹介します。

ケータイ・スパイ大作戦*

携帯のカメラ機能を使った鬼ごっこのルール作りを通じて、ネットワーク社会におけるマナーやルールを学んでいく。遊びのなかから安全で公平なマナーやルールを自ら考えることを体感していきます。

パスタ建築

パスタを使って、計算機科学の「セルオートマトン問題」について簡単に学ぶことができるワークショップ。単純なルールに従って制作するだけで複雑でユニークな構造物を組み立てることができます。

walking around surround*
ウオーキング・アラウンド・サラウンド

持ち運び可能なワイヤレススピーカーを使って、時間と空間の作曲を行うワークショップ。普段意識しない「音の聞こえ方」「空間のなり方」について再発見することができます。2012年8月には、YCAM10周年のプレイベントとして音楽家・坂本龍一さんも交え、新しいバージョンのワークショップを開発。市内の小学校で実施しました。

コトバ身体

身体の動きをコンピューターに取り込み、自分の思いついた言葉と組み合わせていくワークショップ。言葉の選び方で一つの動きの見え方が変わることもあれば、また言葉によって動きが生み出されることも。

感覚アスレチック*

空間に張り巡らされたゴムをよけながら体を動かすことで自分の体がどうやって動くのか、じっくり観察することができます。ほかの人の動きを観ると、まるでダンスの振付のようにも見えてきます。

＊のワークショップおよび「Eye 2 Eye」ワークショップの4点が、
第6回キッズデザイン賞のグランプリにあたる「経済産業大臣賞」を受賞しました。

KIDS DESIGN AWARD 2012

企画を考えています。直接作品を観て何がおもしろいかを見つけ出せるかというヒントを書いた解説書を用意することもあるし、ワークショップなどでは手を動かすことでものを観る目、視野が広がっていくようなことも企画しています。とにかく作品を観ることにポイントを置いたプログラムを考えています。ワークショップは所蔵作品に対して企画することが多いですね。企画展の場合は、展覧会にあわせた関連イベントを開催したり、ショップで関連する本や商品を販売したり、期間限定のレストランをロビーに作ることもしています。例えば、ヨーロッパの絵を観て「ああ、綺麗だった」で終わるのではなく、こういう絵が生まれた背景にはどんなことがあったのか、そういう絵に囲まれて暮らしていた人たちの生活ぶりはどうだったのだろうとか、実際の自分の生活にひきつけて興味を持ってもらえるような窓口をたくさん作っていくことを考えています。

作品に使われている技術や考え方のエッセンスを煎じ詰めていったときに残る、一番核になっている考えにきちんと到達すること

YCAMではどうでしょうか？

会田　企画を考えていくときにいつも意識しているのが、僕たちが作品の代弁者となり、作家の意図やコンセプトを伝えるだけの役割になってはいけないということですね。ある作品があったら、その作品のなかで使われている技術や考え方の“エッセンス”、僕らはそう呼んでいるのですが、エッセンスを煎じ詰めていったときに残る、一番核になっている考え方は何かということにきちんと到達して、それを別の形に置き換えて提示すること。作品を観たときに「これって何かと似ている」とか「これはこういうことなんじゃないかな」といったイマジネーションがわくような、もっと立体的に作品をとらえられるようなプログラムにしたいと思っています。それが作品の批評にも結び付くのではないかと思います。何か背景にあるものをイメージできる能力があるということが、作品の読み解きということにも非常に近いなと考えるようになってきました。代弁者としての教育普及ではなく、立体的にものがみえてくるためのエデュケーションプログラムを目指した方が、お客さんの観る目が厳しくなる。そうするともっといい作品が出てくるはず。

解釈の多様性を掘り起こしていくことが生き方を豊かにしていくことにもつながる

発想のヒントはいつも日常にある

各館とも独創的なアイディアをいつも思いつかれていますが、発想のアイディアはどこから？

会田　いいアイディアを思いつけるようになるには、ずっとネタを日常探していますね。ネタを考えないといけない仕事についている人は全員そうだろうけど、「さて、アイディアを練ろうか」といって机の前に座って考えられるのかといったら、そんなことはないですよね。

前田　何か別のことをしているときに「あ、これか！」とひらめくことがありますよね。

会田　お風呂に入っているとき、テレビをみているとき、車に乗っているときとか、「あ、こういう理解の仕方もあるよな」なんて、ふと思いつくことがありますね。リサーチももちろんしていきながら、これはこれにつながるとか。全然関係ないもの同士でも、実はそこに共通点があることに気づければ、それを教育のプログラムに応用していけるだろうし、ヒントは日常にあると思っています。

前田　あとは、作品をじっくり観るにつきます。美術館としては、最終的に落ち着くところは“ものを観る”ための物差し…というか、引き出しがどれだけ持てるのか、そこだと思っているので。

会田　美術作品の楽しみ方というのは、アーティストがこう考えて作ったんだということを追体験する楽しさと、その反面、まったく違う解釈もそこから読み取れてしまうという楽しみ方もあると思うのですが、そこを美術館としては今後どんなふうに普及していこうと考えていらっしゃるんですか？

前田　作家の作品に対する想いの追体験という側面もあるかもしれないけど、大切なのは美術作品を観て自分がそれに対してどれだけ考えをめぐらすことができるのかということだと思っています。ただそこにどうやってもっていくかというのは難しい…。美術館としてどうすればいいのか私たちも悩みながらやっているところです。お客さんからはある程度評価の定まった事柄、正しい見方を聞かれることが多いんですよね。“正しい見方”というのはないんですが…。知識の一つとして美術史的なお話もおもしろいのですが、でもそれを受け入れるだけだと人生つまんないじゃない？と思います(笑)。評価が定まっているものにしても一つだけの解釈があるんじゃなく、違う解釈もあってそれを知ったり、自分で考えたりすることも楽しいんだよと気づいてもらいたい。そこが美術のおもしろさなんじゃないかなと思っています。

会田　解釈の多様性をどんどん掘り起こしていくことはクリエイティブなことだと思うので、今後もそのことを伝えていきたいですね。

前田　それはまさに生き方を豊かにしていくことにもつながりますよね。

PRESENT

YCAM教育普及に関係するオリジナルグッズをプレゼントします。

【申込方法】ご希望のプレゼント番号、住所・氏名・年齢・電話番号・e-mail等の連絡先、今号の「any」の感想をご記入の上、1月31日(木)までにハガキ(当日消印有効)・FAX・e-mailでご応募ください。

A YCAM WORKSHOPS(3名)

2008年までに開発されたYCAM教育普及のオリジナルワークショップについてまとめた報告書兼レシピ本。これを読めばYCAMワークショップの極意が分かる!? 非売品です。

B『ヨロボン』(1名)

哲学者・吉岡洋を編集長に迎え、市民グループ「編脳研」が1年かけて作った、山口のローカルな題材をグローバルな視点で編集した本。

C 記念日カレンダー「ココにある日常 ソコにある思い出」(1名)

アーティストユニット“フタボンコ”と市民グループ「オモイデコレクタス」の半年間にわたる協働プロジェクトを通して生まれた日めくり万年カレンダー。

【あて先】〒753-0075 山口市中園町7-7
(公財)山口市文化振興財団
「any vol.83 特集プレゼント」係
FAX:083-901-2216　e-mail:any@ycfcp.or.jp
※当選の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

山口県立美術館に行ってみよう!!
お薦めの展示はこれ！
「美術の美はビックリのビ」

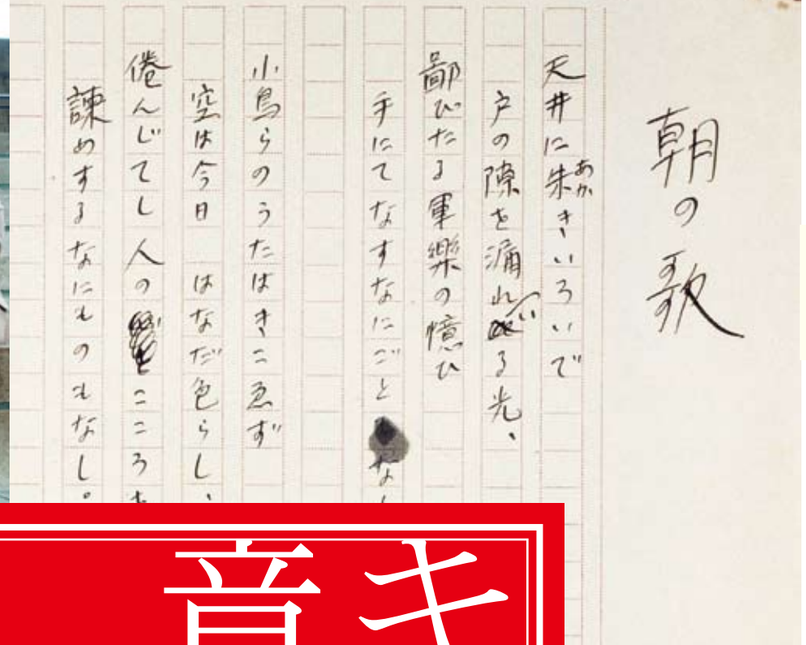
2013年1月8日(火)～3月31日(日)
9:00～17:00
休館日:月曜日(月曜日が祝日にあたる場合はその翌日)

聴いた！観た！みんなのレビュー

◎中也が聴いた音楽を蓄音機で流していただき、目をつむって聴くと懐かしい感じさえします。
心のヒダがふっと揺れた気がしました。（50代男性　「SPレコードコンサート」より）
◎カレーの匂いのする舞台は初めてです！　（50代女性　「地球の王様」より）
◎当時の中也と安原さんが聴いていた情景など思い浮かべながら聴きました。（50代女性　「SPレコードコンサート」より）

聴いた！観た！みんなのレビュー

◎キメキメにかっこつけた子どもたちが格好良かった。子どもが演じるからむしろテーマについて説得力があったと思う。
幼い頃ほど、自分の死について考えるときはないと思うので。（20代女性　ゴブ・スクワッド＆CAMPO「Before Your Very Eyes」より）
◎学校にない楽器が聴けた。迫力があってすごかった。（男性　「ワンダードラムパフォーマンス」より）
◎一人生の縮図って感じでおもしろかった。笑いもたくさんあった。（20代女性　「地球の王様」より）



キーワードは音楽。

2013年の新春は
音楽をキーワードに
始まります。

山口市民会館では、
ロックバンドによるパワフルなライブもあれば
ピアノ・ヴァイオリン・チェロによる
大人のクラシック・コンサート、
恒例のニューイヤーバンドフェスティバルと
市民コンサートなど
多彩なラインナップが用意されています。
山口情報芸術センターではダンスを交えた
ライブパフォーマンスがあり、
中也記念館では、中原中也の詩×音楽に迫った
企画展を開催します。
様々な音楽を探しにお出かけください。

©富田眞光（vale.）

©武藤章

©Kiyotaka Saito

P I C K　U P　E V E N T !　W I N T E R　2 0 1 3

ピックアップイベント

山口情報芸術センター（YCAM）

http://www.ycam.jp/

scopic measure #15

ライゾマティクス新作インスタレーション展

2013年1月27日（日）～3月24日（日）　10:00～19:00
会場：スタジオB

デザインとアートの横断から生まれる新たなフォーマット

2006年に設立し、映像、サウンドを駆使したウェブデザインから、インタラクティブ広告、プロジェクションマッピングまで、幅広いメディアをカバーする高い技術力と表現力をあわせ持ったプロダクションカンパニー「ライゾマティクス」。建築、メディアアート、音楽など、様々なバックグラウンドを持つ個性豊かなクリエイターらが、デザイン／アートの枠組みを行き来しながら展開し、常に既存メディアとは異なる新たなフォーマットを探究するアプローチは世界中から注目を集めています。今回、その「ライゾマティクス」が企画する新作インスタレーションを発表。新たなメディアアートを探究するインスタレーションを公開します。

参考写真：真鍋大度＋石橋 素「particles」（2011、山口情報芸術センター）

わたしはココに注目する！

ミュージッククリップやウェブデザイン、インタラクティブ広告など多岐にわたって活躍するクリエイター集団「ライゾマティクス」が次にしかけるのはどんなインスタレーションなのか？ オープニングイベントとして、作品空間内にてライブ＋ダンスパフォーマンスも公開します！ お見逃しなく!!

料金 ▌無料

YCAM InterLab + 安藤洋子　共同研究開発プロジェクト

「Reactor for Awareness in Motion」プレゼンテーション

2013年2月23日（土）14:00～16:00
会場：スタジオA

メディア技術がダンス表現の新たな扉を開いていく

ザ・フォーサイス・カンパニーの主要ダンサーとして国際的に活躍する安藤洋子がYCAM InterLabと共同で研究開発しているプロジェクト“Reactor for Awareness in Motion”。2011年から始まり、徐々に進められてきたこのプロジェクトでは、映像メディアやモーションキャプチャーなどのメディア技術を駆使しながら、新しいダンス創作のためのツールの開発を目指しています。昨年の夏に、開発途中のツールを一般の方に向けて紹介するオープンスタジオを行ったところ、参加者から多くの反響の声が寄せられました。今回は研究開発の最終成果を用いたダンス・デモンストレーションを披露。また、そこにどんな技術が隠されているのか詳しく解説し、これまでのプロジェクトの成果について発表します。さらに、ゲストを迎えたトークセッションを行い、このプロジェクトが示唆する広がりを検証していきます。

参考写真：「Reactor for Awareness in Motion」オープンスタジオの様子

わたしはココに注目する！

「Reactor for Awareness in Motion」関連ワークショップ

開発したツールを実際に使用したワークショップを行います。

2013年2月23日（土）・24日（日） ※2日間通し
会場：スタジオA
［料金］2,000円（プレゼンテーションの入場料含む）
［講師］安藤洋子 ほか　［定員］高校生以上30名
※申込方法等詳細はお問い合わせください。

チケット情報 ▌一般発売　1月12日（土）～
料金 ▌全席自由　1,000円

■特に記載のない場合、any会員割引は1会員2枚まで。
■いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。　■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
■特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

mini PICK UP!

sound tectonics #12

2013年1月26日（土）
14:00開演
会場：山口情報芸術センター スタジオB

YCAMの持つハイクオリティなサウンドシステムを使って行われるライブシリーズ「sound tectonics」。
今回は、左のPick Up!でもご紹介したライゾマティクス新作インスタレーション展のオープニングにあわせて開催します。展覧会の参加アーティストである真鍋大度が、作品の展示空間をそのまま使いライブパフォーマンスを行います。ここでは、YCAMが誇る音響設備を駆使した最高の音空間を体験できるだけではなく、ダンサーも登場し、その動く身体にプロジェクションマッピングが投影されるといった未経験のパフォーマンスも同時にお楽しみいただけます。

［料金］500円（要申込）
［出演］真鍋大度 ほか
※申込方法等詳細はお問い合わせください。

旅するYCAM

三上晴子「Eye-Tracking Informatics ～視線のモルフォロジー」

「Eye-Tracking Informatics」展示の様子（2012、スロベニア）

アーティスト三上晴子による作品「Eye-Tracking Informatics」は、視線入力装置を用いて体験者の視線の動きを取り込み、スクリーンの中でそれが軌跡となって描かれるインスタレーション作品。2011年冬にYCAMで新作として発表された後も、国内外の美術館や国際展に出品。今年度は海外を2カ所巡回しています。今秋9月初旬から11月初旬にかけて行われた韓国・ソウルでのアートフェスティバル「Media City Seoul 2012」では、作品に新たな改良が加えられての展示となりました。ソウルでの展示が終わるとまたすぐに次の巡回地・スロベニアへ。11月中旬から開催のアートフェスティバル「Maribor 2012 European Capital of Culture」に出品されました。次はどんな場所を巡るのか、旅はまだ始まったばかり。

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

第10回常設テーマ展示

「中也の“うた”」

2013年2月21日(木)～8月25日(日)

中也の詩のなかにみる“うた”と“音楽”

自らの詩集を『山羊の歌』『在りし日の歌』と名付けたように、中也は“うた”を強く意識した詩人でした。
中也の詩には、たくさんの“うた(歌、唄)”という言葉があらわれます。また、中也は童謡、唱歌、民謡、流行歌といった様々なジャンルの音楽から影響を受けた作品を残しています。中也の詩が初めて活字となって世に出た「朝の歌」「臨終」は諸井三郎の作曲による歌曲の歌詞としてでした。当時、中也は音楽団体スルヤの人々と交流していましたが、諸井三郎はそのメンバーの一人。この2作は機関誌「スルヤ」に掲載されたものでした。
本展では、中也と音楽の関わりや、中也の詩に見られるリフレインや転調などの音楽的表現、歌曲になった中也の詩をご紹介しながら、中也にとっての“うた”とは何かを探ります。

「朝の歌」原稿

わたしはココに注目する!
中也は歌や音楽についての評論も多く記しています。中也の“うた”への熱い思いに触れてください!

入館料 一般 310円(262円)／大学生 210円(157円)／小中高生 150円(105円)
※70才以上は無料　※(　)内は20人以上団体料金　※あわせて企画展もご覧いただけます。　※12／29～1／3は休館

中也検定 これであなたも中也通?!

中原謙助の肖像写真

Q. 中也の父・謙助は、軍医として、また中原医院の医師として多くの患者の治療にあたっていましたが、医師免許を取得したのは済生学舎(さいせいがくしゃ)という東京の医学専門学校においてでした。同校の機関誌「済生学舎医事新報」第62号には「明治30年医術開業試験及第生徒広告」として合格者の名前が掲載されており、そこには後に著名となったある人物の名前が謙助とともに記されています。それは誰でしょうか。

1 斉藤茂吉
2 北里柴三郎
3 野口英世

答えは14ページ

中也を味わう

中原中也記念館の前庭で行っている屋外展示。今年度は「祈りの詩」をテーマに展示しています。10月からは後期がスタート。「生ひ立ちの歌」「我が祈り」「寒い夜の自我像」の3篇を、詩の内容に合わせた素敵なデザインを背景にして読むことができます。宮沢賢治のように宗教的な活動を行ってはいませんが、中也の詩にとって、「祈り」は重要な題材。今回展示している3篇も、作品の中心に「祈り」があります。中也の詩は、あなたの心の中にある「祈り」とどう響き合うのか? ぜひ展示でお確かめください。

いまだけしか見られないお宝資料を展示します!!

昨年11月1日より開催中の企画展Ⅱ「中也の父・謙助」では、謙助の生涯を辿りながら、中也の作品に書かれる父親の姿を紹介しています。この中で、あまり知られていない中也の小説を大きく取り上げました。今回は11月1～4日、23～25日の期間限定で小説「その頃の生活」の直筆原稿を特別公開しました。複製にはないその迫力に、来館者の皆様は強く惹きつけられていました。

小説「その頃の生活」は自分の家族との関係を描いた作品で、中也が16歳のときに書いたものです。冒頭から主人公と父親との言い争いが描かれ、中也もきっと父親の謙助とこんな会話をしていたのではないかとうかがわれます。
1月からは小説「医者と赤ン坊」を展示しています。医者として働く父・謙助の姿をモデルにした作品で、こちらも、お宝展の開催にあわせて3月2日、3日に直筆原稿を公開します。中也の筆跡に直に触れていただける貴重な機会、ぜひご来館ください。

企画展Ⅱ
「中也の父・謙助」
開催中～2013年3月24日(日)

3月2日(土)・3日(日)のみ
中也の小説「医者と赤ン坊」の直筆原稿が展示されます。

観た!聴いた!みんなのレビュー
◎中也を知ろうとすると長谷川泰子という名前が出てくるが、実際にどんな人物かと思っていたので、今回の映画で少し知ることができた。音楽も良かった。(20代女性　「映画「眠れ蜜」を観る」より)
◎一過性の演劇において時間を往きつ戻りつしながら鑑賞者側のそれぞれの世代の境遇も織り交ぜるという素晴らしい作品でした。(40代女性　ゴブ・スクワッド＆CAMPO「Before Your Very Eyes」より)

山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

STARDUST REVUE LIVE TOUR「B.O.N.D.」

2013年2月23日(土)　17:30開演
会場:大ホール

スターダスト・レビュー、1年半ぶりとなる山口公演

1981年のデビュー以来、約30年の活動の実績を誇る“スターダスト・レビュー”。ライブに熱い情熱をかける彼らが今年も全国各地でツアーを行い、山口には1年半ぶりにやってきます。スタレビの魅力は、まさにライブにあり。観客を魅了する歌の数々、それを目の前で聴ける感動。そして何より、メンバーひとりひとりのキャラクターが濃く、そんな個性豊かな彼らが繰り出すトークも醍醐味の一つ。特にボーカルの根本要はしゃべりだしたら止まらない。今回のライブでも彼の笑いあふれるトークは健在です! ますます円熟味を増し、パワフルなステージを見せてくれるスタレビのライブ。今回はどんな歌と演奏、そしてトークで私たちに笑顔と元気を与えてくれるのか、たっぷりとお楽しみください。

わたしはココに注目する!
ライブの時間がいつも長引いちゃう理由は、ボーカルの根本要さんのトーク時間があまりにも長いせいだとも…。最近は、彼のMCの際には首からタイマーをかけられたり、時間になると赤点滅がかかったりするようです。今回のライブでは、彼の長いトークを止めるための工作はあるのか!?そこも密かに注目してくださいね。

チケット情報 発売中
料金 全席指定　前売　一般 6,500円　any会員 6,200円
※ジュニア(25歳以下)・シニア(65歳以上) 5,500円
当日年齢確認ができるもの持参で差額を返金。
※障がい者(児)介助者割引あり。詳細は要問い合わせ。

先行チケット発売情報 早チケ
any会員先行予約 3月9日

ストラディヴァリウス サミット・コンサート2013

2013年6月8日(土) 15:00開演
会場:山口市民会館　大ホール

名器と言われ、1丁でも数億円といわれる“ストラディヴァリウス”が11丁も集まる夢のコンサートがここに。しかも、これらの名器たちを操るのは、誰もが認める世界最高峰のオーケストラ、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーを中心に編成された弦楽アンサンブル“ベルリン・フィルハーモニック・ストラディヴァリ・ソロイスツ”。1993年に結成されて以来、2年ごとの来日コンサートにすべて出演。その比類のない演奏は、至るところで絶賛を博しています。いまだかつてない響きを味わうことができる、世界でも稀有なコンサートへどうぞ足をお運びください。

[チケット情報]
any会員先行予約　3月9日(土)～
一般発売　3月23日(土)～
[料金]全席指定
S席 7,000円／A席 6,000円／B席 5,000円(予定)
※any会員は各500円引き、学生割引あり

千住真理子＆長谷川陽子＆仲道郁代

女神たちの“愛のうた”

2013年3月12日(火)　18:30開演
会場:大ホール

音楽の女神(ミューズ)たちによる夢の饗宴

ヴァイオリンの千住真理子、チェロの長谷川陽子、そしてピアノの仲道郁代。日本が誇る3人のミューズたちによるトリオコンサートがついに山口に! ヴァイオリン、チェロ、ピアノそれぞれの独奏、二重奏、三重奏といったさまざまスタイルで、ちょっとクラシックに興味を持たれたビギナーからディープなファンまで、あらゆるお客様にお楽しみいただけるプログラムでお届けします。J.S.バッハやショパンの名曲、そして3人が一堂に会するベートーヴェン作曲、ピアノ三重奏曲「大公」など聴きどころ満載。妍と技とを競い合うミューズたちの饗宴を、お聴き逃しなく!

©富田眞光(vale.)　©武藤章　©Kiyotaka Saito

千住真理子　長谷川陽子　仲道郁代

わたしはココに注目する!
それぞれがオーケストラとの共演やソロ演奏、他の演奏者との企画ステージなど、多彩に活躍する3人が集まったとき、どんな素敵なコンサートが生まれるのか? 音楽のミューズがほほ笑む魅惑的なコンサートをご堪能ください。

チケット情報 発売中
料金 全席指定　前売　S席　一般 4,000円／学生 2,000円
A席　一般 3,000円／学生 1,000円
※any会員は一般料金より各500円引き(1会員4枚まで)
※当日各500円高

[出演]千住真理子(ヴァイオリン)、長谷川陽子(チェロ)、仲道郁代(ピアノ)
[曲目]ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲第7番「大公」ほか

mini PICK UP!

第40回市民コンサート

2013年3月20日(水・祝)
13:00開演(予定)
会場:山口市民会館　大ホール

毎年春分の日に行われる恒例の「市民コンサート」。昭和49年より開催され、この度記念すべき40回目を迎えるなか、本コンサートに対する期待がますます高まってきています。今年もまた、今年度内に開催された各種音楽コンクールで優秀な成績を収められた個人・団体の方々をお招きし、素晴らしい演奏を披露していただきます。そしていつも私たちに感動を与えてくれる市内の中高生約100名からなる「山口ジュニアオーケストラ」の圧巻な演奏にもご注目ください!

[料金]無料

■特に記載のない場合、any会員割引は1会員2枚まで。
■いずれの公演も当日券は各種割引の対象外となります。　■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
■特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

any通信

今年はどんな年になるのか
おみくじ占いの結果は…

中也が生きた時代に思いを寄せて

「SPレコードコンサート」の様子

中也が生きた昭和初期、音楽を聴くといえばコンサート会場に足を運ぶか、あるいは自宅にある蓄音機にレコードをかけて楽しむかでした。今秋10月に中原中也記念館で行われたSPレコードコンサートは、中也が耳を傾けたであろう名曲の数々を、SPレコードと蓄音機で再現。温かいレコードの音色は懐かしさとともに、当時に思いを馳せるひとときとなったようです。

また、山口情報芸術センタースタジオAを使って行われた「中原中也を読む会100回記念」の企画では、中也と恋人関係にあった長谷川泰子が出演する映画「眠れ蜜」を上映。中也が生きていた時代の雰囲気を伝える貴重な映像に、参加者の皆さんはどんな思いを重ねられたことでしょう。

東京へ出張ワークショップに行ってきます！

デザイナーのナガオカケンメイさんがロングライフデザインをテーマに47都道府県それぞれにある、その土地に長く続く「個性」「らしさ」を、デザイン的視点から選び出し、観光ガイド本としてまとめた「d design travel」。北海道、鹿児島、大阪、長野、静岡、栃木、山梨、東京に続き、山口号がこの度2月に発刊されます。その発売を記念し、東京・渋谷のヒカリエ8階「d47 MUSEUM」で、2月から約1カ月間、“山口”をテーマにした展覧会を開催。その関連イベントとしてYCAMの教育普及スタッフがヒカリエに出向き、オリジナルに開発した「感覚アスレチック」ワークショップを行います。東京にお出かけの際はぜひ足をお運びください。

2013年2月17日(日)　17:00～19:00
会場:渋谷ヒカリエ8F　d47 MUSEUM

石巻での「感覚アスレチック」ワークショップ開催の様子(2012)

ARTIST VOICE アーティスト ボイス

武田高司（司会・役者）

山口市民会館をパワフルなドラム演奏の響きで包み込んだ「ワンダードラムパフォーマンス」。その司会を務めた武田高司さんは、今回初めて訪れた山口で、いくつもの感動的な出来事に出会えたそうです。武田さん、山口でどんな体験をされたのか教えてください。

「ありがとうございました」とお礼が言いたいです。

9月の「ワンダードラムパフォーマンス」で生まれて初めて訪れた山口市。東京から940キロというとてつもない距離を車で移動したこと、小夜食でいただいた唐揚げと豚の角煮が絶品だったこと、ステージ交流の場でマリンバ解体ショーが大きなどよめきの中で進められたこと…数々の感激がありました。公演には、耳の不自由な方が手話通訳の方といらっしゃって、「打楽器演奏の際の空気の振動を感じられるので、なるべく舞台近くがよい」とのご要望で、最前列の席が用意されました。私のMCを手話通訳の方がお客様に伝えると、時々うなずきながらにこやかな表情を浮かべていらっしゃいました。私たちの公演をご覧になって、結果的にどのような印象を持たれたのか、終演後にお会いすることもできず知る由もないのですが、彼女が得た感覚は、おそらく彼女にしか得られない感覚だったはず。身体が不自由な方でも音楽は楽しめます。その当たり前のことを実行してくださったその方に「お越しいただきまして、ありがとうございました」とお礼が言いたいです。

「ワンダードラムパフォーマンス」
2012年9月30日　会場:山口市民会館

大型のマリンバ、6台の大小のスネアドラム(小太鼓)などを巧みなバチさばきと、身体全体を使って演奏する圧巻のパフォーマンスで観る者を魅了。楽器だけではなく、フライパン、クラッカー、風船にピコピコハンマーなど、音が出るモノなら何でも演奏道具にしてしまうユニークなテクニックにも驚かされた。今回は終演後に、演奏したマリンバを移動用に解体するショーや使用した楽器の公開を行ったところ、ほとんどの観客がその場にとどまり、興奮冷めやらぬ様子でいつまでも楽しそうに楽器を叩く、あるいは目を輝かせながらマリンバを解体していく様子を見つめていた。

武田高司　TAKEDA Takashi

1964年生まれ。桐朋学園芸術短期大学演劇専攻卒業。87年、劇団青年座に入団。92年、同劇団を退団。同年、劇団東京座の旗揚げに参加。2003年より、日本音楽企画株式会社に入社。マネージャー、司会、役者、ディレクター、プロデューサー、舞台監督、運転手と何でもこなしながら年間100回を超える舞台公演に同行。ワンダードラムパフォーマンスでは司会を務め、公演の盛り上げ役として演奏者とともにエネルギッシュに活躍している。

みんなのレビュー　聴いた！観た！

◎蓄音機を通して昭和のポピュラー音楽の一端を知ることができました。（40代女性　「SPレコードコンサート」より）
◎正直、前回が私にとっては酷評だったので、今回は二重丸です。こうゆうコメディーはサラッとしてないと。単純で明快で良かった。（40代女性　「地球の王様」より）
◎当時の医療事情も垣間見つつ中也の育った環境がよく分かりました。（30代男性　「中也の父・謙助」より）
◎自分が10代のとき、このように死について考えたことがなかった。（50代女性　ゴブ・スクワッド＆CAMPO「Before Your Very Eyes」より）

お先に試写しました

©2011 Nikolaus Geyrhalter Filmproduktion GmbH

「眠れぬ夜の仕事図鑑」

（2011年／オーストリア／94分／カラー／デジタル）
［監督・撮影］ニコラウス・ゲイハルター

“様々な国の、様々な人々の夜の活動が切り取られている”。一言で説明するのであれば、この25文字で充分なのかもしれないけれど…。夜は寝る人が多い中で、働いている人がいるってことも、遊んでいる人がいるってことも分かっている。でも、こうして連続して流れていく様々な風景を「へー知らなかった、そうなのか」という社会見学的な感想だけではすませられない作品だと思う。

人間の数だけ、その夜の姿があるわけで、例えば、DJやレストランで働く人々のいるその賑やかな夜の灯りと、自殺防止のホットラインの相談員や、老人ホームでの静かでちょっとした緊張感のある灯りとの違いだとか、ご遺体を火葬している人がいる一方で生まれたばかりの赤子を抱きしめる医師がいる等、様々な人生や悲喜交交を見ていると、生きることや社会の構造だとかを考えざるを得ない。その他にも、ナレーションやテロップなどで手を加えることもせずに、その状況が断続的に映像として流れていく。このいたってシンプルそうに見える手法について、映像であることの意味や、ドキュメンタリーって何だ？ということまで考えてしまう。おまけに映像が抜群に美しいのだ！ ところで、YCAMでは、2月にRKB毎日放送でディレクターとして活躍していた木村栄文氏のレトロスペクティブを開催する。こちらはナレーションもあるし、ちょっとした演出もあるドラマが挿入されていたりと、様々な手法のドキュメンタリー。あわせてご覧いただきたい。

松冨淑香（YCAM シネマ担当）

2013年3月8日(金)　13:30～／19:00～
9日(土)　13:30～／16:00～
10日(日)　13:30～／16:00～
会場:山口情報芸術センター　スタジオC

［料金］一般 1,300円
any会員・特別割引・25歳以下 800円

©2011 Nikolaus Geyrhalter Filmproduktion GmbH

「眠れぬ夜の仕事図鑑」　作品紹介

2007年に公開され、話題を呼んだドキュメンタリー「いのちの食べかた」。本作の監督、ニコラウス・ゲイハルターが、ヨーロッパ10カ国を14カ月にわたって取材した中から、“夜に活動する”様々な人々の生活と、様々な社会を浮き彫りにしたドキュメンタリー。

My Favorite

関係者以外立ち入り禁止の場所。市民会館の屋上から撮影した一枚です。職員ですら滅多に上がることはないけれど、扉を開けた瞬間の空気と山口市内を見渡す景色は、やっぱり高いところならではの心地良さ。初めて屋上に上がった時、ちょっとだけ感動したのを覚えています。

藤田雅子（山口市民会館 職員）

いらっしゃいませ

パスタ（日替わり）
（サラダ・ドリンク付）
1,200円※13時以降のオーダー

オーガニックの素材で作る絶品の日替わり野菜パスタ

本日はトマトクリームパスタが登場。しかもたっぷりのかぼちゃ、嬉しいですねぇ。ベースとなるトマトクリームソースにはベジカフェならではのアレンジで、生クリームではなく豆乳を使用。味わい深いコク、さらに白味噌や練りごまの風味、じっくり炒めた玉ねぎやキノコの旨味が太めのパスタにしっかりと絡まって、いやはや参りました、このおいしさに！ 店内にかかる音楽、本棚に並ぶ本、お店のご夫妻の人柄、どれも素敵。1人で行っても楽しくてつい長居を…。なんと、映画好きのご夫妻からの粋な計らい。YCAMで映画や公演に参加したときの半券（2週間以内）を持参するとドリンクが100円引きになりますよ。

ベジタブル喫茶 ToyToy
山口市後河原37-1　TEL.070-5057-0821
営業時間:12:00～15:00（夕方以降は要予約）　金曜休み
※any会員の方は3,000円以上の食事あるいは雑貨購入で100円引きに。

GOOD GOODS

YCAM10周年オリジナルグッズ
「ピンバッジ」

10周年記念グッズ第一弾！

いよいよ2013年に10周年を迎えるYCAM。アニバーサリーイヤーを盛り上げるのにふさわしいオリジナルグッズを色々検討中。そんな中、一足先にお目見えしたのが10周年のロゴデザインをあしらったピンバッジ。デザイナー柿木原政広さんによるこのロゴは、YCAMの象徴となるYの字を中心に6つの矢印が外向きに広がっています。YCAMの10年間の活動が外に、あるいは未来に向かって様々につながりまた広がっていくように、そんな思いが込められたデザイン。一見シンプルだけど、見方によっては立方体にもみえてくるから不思議です。YCAMを訪れた記念にぜひお買い求めください。

価格:500円（税込）

みんなのレビュー　聴いた！観た！

◎木から出る音がこんなに心を柔らかくすることを「生演奏」で初めて知って感動しました。（60代　「ワンダードラムパフォーマンス」より）
◎蓄音機の音の美しさと予想以上の音量に魅了されました。（50代男性　「SPレコードコンサート」より）
◎ちょっと涙が出ました。人生長いようで短いのかな？　（30代女性　ゴブ・スクワッド＆CAMPO「Before Your Very Eyes」より）
◎演劇の楽しさを実感。セリフ、立ち回りとプロの心意気を見せられ感動しました。素直に楽しめる舞台でした。（女性　「地球の王様」より）

EVENT CALENDAR 2013.1–3

1 January　2 February　3 March

掲載内容は2012年12月1日現在のものです。変更の場合がありますので、ご了承ください。

山口情報芸術センター（YCAM）

http://www.ycam.jp/

※年末年始のお休み12／29～1／3

アート

- 開催中 ～7　Making of “THE END”
- 27～24　scopic measure #15 ライゾマティクス新作インスタレーション展（本誌P9参照）

ライブ

- 26　sound tectonics #12（本誌P9参照）

シネマ

- 10～14　増村保造×柳町光男監督特集 ※1／13（柳町光男）、1／20（万田邦敏）トークイベントあり
- 17～20　増村保造×柳町光男監督特集
- 24～27　増村保造×柳町光男監督特集
- 31～3　増村保造×柳町光男監督特集
- 7～10　木村栄文特集
- 15～17　木村栄文特集
- 22～24　「カルロス」
- 1～3　「ライク・サムワン・イン・ラブ」
- 8～10　「眠れぬ夜の仕事図鑑」（本誌P13参照）
- 15～17　「愛しきソナ」「かぞくのくに」
- 22～24　「グレートラビット」と世界のアニメーション傑作選

その他

- 23　24　YCAM InterLab＋安藤洋子　共同研究開発プロジェクト「Reactor for Awareness in Motion」プレゼンテーション＋ワークショップ（本誌P9参照）※プレゼンテーションは23日のみ
- 9　10　YCAM InterLab Camp vol.2「TECHTILE」集中ワークショップ

山口市民会館

http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/

※年末年始のお休み12／29～1／3

- 20　第17回ニューイヤーバンドフェスティバル2013
- 23　STARDUST REVUE LIVE TOUR「B.O.N.D.」（本誌P11参照）
- 12　千住真理子&長谷川陽子&仲道郁代 女神たちの“愛のうた”（本誌P11参照）
- 20　第40回市民コンサート（本誌P11参照）

中原中也記念館

http://www.chuyakan.jp/

※年末年始のお休み12／29～1／3

- 開催中 ～24　企画展Ⅱ「中也の父・謙助」（本誌P10参照）
- 27～8／25　企画展Ⅰ「中也と旅」（仮）
- 開催中 ～18　第9回常設テーマ展示「『在りし日の歌』まで」
- 21～8／25　第10回常設テーマ展示「中也の“うた”」（本誌P10参照）
- 19　和合亮一トークライブ 会場：山口情報芸術センター
- 25　中原中也を読む会 会場：山口情報芸術センター
- 22　中原中也を読む会
- 2～4／7　山口お宝展
- 22　中原中也を読む会 会場：山口情報芸術センター

［マーク説明］ 体験する　参加する　聴く　観る

INFORMATION

■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

インターネット　山口市文化振興財団ホームページ（要事前登録・24時間受付）

http://www.ycfcp.or.jp/

※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。

電話　チケットインフォメーション（10:00～19:00　※火曜休館・祝日の場合は翌日）

TEL. 083-920-6111

窓口　チケットインフォメーション（10:00～19:00　※火曜休館・祝日の場合は翌日）

山口情報芸術センター

※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

支払方法

クレジットカード　インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。
チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

セブンイレブン　インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。
お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

窓口　※上記予約方法「窓口」参照

■託児サービスについて

山口市文化振興財団では
託児サービスを行っています。

※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。
お子様の食事は事前に済ませておいてください。

公演開催時

［対象］0才（6ヶ月）以上
［料金］1人につき500円、
2人目以降は1人につき300円
［時間］開演の30分前から終演後30分まで
［申込方法］公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。

※公演によっては行わない場合もございます。
事前にお問い合わせください。

山口情報芸術センター　キッズスペース

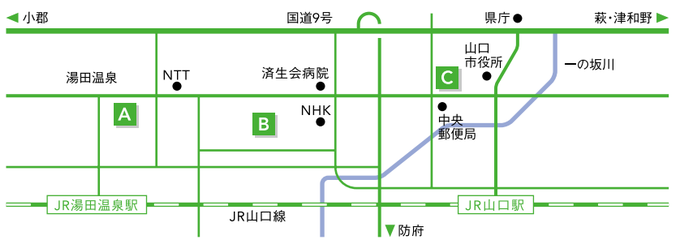
［対象］1才以上
［料金］1人につき30分150円
［時間］13:00～17:00　1回2時間まで
（山口市立中央図書館休館日を除く）
［申込方法］当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

any（エニー）会員募集!

※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

［年会費］1,500円＋入会金500円　※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。
［会員期間］入会日から翌年の入会月末まで
［会員特典］チケットの先行予約および割引購入（公演によっては適用されないものもあります）、
情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion
〒753-0075　山口市中園町7-7（山口情報芸術センター内）
TEL. 083-901-2222 ／ FAX. 083-901-2216
http://www.ycfcp.or.jp/　zaidan-info@ycfcp.or.jp

編集後記

本誌編集ピークの頃、主催事業が目白押しで、自分も担当の企画を抱え多忙に。今号は完成しないんじゃないかと、泣きながら、合間をぬって編集に打ち込む日々でした…。作業中寒くて背中を丸めていたからか腰が痛い。［M.D］

缶コーヒーのオマケに船艇の組立モデルがついてくると聞いて急いでコンビニへ。驚きのクオリティに感動し、戦闘機シリーズは全種類を購入しました。でも、HOTコーナーで温められているのを見て苦笑。［T.I］

A 中原中也記念館
〒753-0056　山口市湯田温泉1-11-21
TEL. 083-932-6430 ／ FAX. 083-932-6431
［開館時間］9:00～18:00（入館は17:30まで）【5～10月】
9:00～17:00（入館は16:30まで）【11～4月】
［休館日］月曜（祝祭日の場合は翌日）、毎月最終火曜（変更あり）、年末年始
http://www.chuyakan.jp/　chuyakan@c-able.ne.jp

B 山口情報芸術センター（YCAM）
〒753-0075　山口市中園町7-7
TEL. 083-901-2222 ／ FAX. 083-901-2216
［開館時間］10:00～20:00（夜間イベントのある日は22:00まで）
［休館日］火曜（祝祭日の場合は翌日）、年末年始
http://www.ycam.jp/　information@ycam.jp

C 山口市民会館
〒753-0074　山口市中央2-5-1
TEL. 083-923-1000 ／ FAX. 083-928-8488
［開館時間］8:30～17:15　［休館日］年末年始
http://www.c-able.ne.jp/~shiminkk/　shiminkk@c-able.ne.jp

検定 中也 答え
A. 3 野口英世
（合格者の中に本名「野口清作」の名前が見えます。企画展「中也の父・謙助」でその画像をご覧いただけます。）

聴いた！観た！みんなのレビュー
◎人間が誰しも持っているエゴイズム。考えさせられました。（40代女性　「地球の王様」より）
◎中也と父との当時のやりとりがよく分かりました。（60代男性　「中也の父・謙助」より）
◎ずっと前のめりで楽しんでいました。派手なセットでもなく、メンバーも一見フツーの雰囲気の方々でしたが、最後には全てがキラキラしていて、とても格好良かったです！（40代女性　「ワンダードラムパフォーマンス」より）

公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion